

萬題發句集冬之部

或也輯

十月

十月やうきまき

ゆきれり

蒸気

十月やあけのりあり

ゆき

標風

十月やあけのりあり

ゆき

標風

小春

やまゆきく田舎あけり

標風

標風のまきむやあり

標風

ゆきありあけのりあり

標風

ゆきありあけのりあり

標風

ゆきありあけのりあり

標風

ゆきありあけのりあり

標風

神送

神名

夷講

玄猪
翁忌

おんむらとちしちや神一送 上 成

おんむらとちや神乃留 上 成

下石ひら止すしりまひや夷 上 成

あまのりあししお神や夷 上 成

代名をもさひしちや夷 上 成

御猪く下戸のぬくも 玄猪小 上 成

御猪く下戸のぬくも 玄猪小 上 成

玄猪

あまのりあししお神や神一し 上 成

あまのりあししお神や神一し 上 成

御猪の旧地をたつて

あまのりあししお神や神一し 上 成

時雨

寺

あまのりあししお神や神一し 上 成

あまのりあししお神や神一し 上 成

あまのりあししお神や神一し 上 成

あまのりあししお神や神一し 上 成

あまのりあししお神や神一し 上 成

あまのりあししお神や神一し 上 成

枯尾花

しやあとのすけりんすけりん 三十四 一丁

あつちもゆあくおつ 松 三十五 一丁

澄標えれ志つまるし 三十六 一丁

あしああああ 三十七 一丁

川中あつし 三十八 一丁

あつち 三十九 一丁

枯 枯 枯 四十 一丁

枯 枯 四十一 一丁

枯 枯 四十二 一丁

枯 枯 四十三 一丁

川 四十四 一丁

冬 四十五 一丁

あ 四十六 一丁

ま 四十七 一丁

ひ 四十八 一丁

と 四十九 一丁

も 五十 一丁

川 五十一 一丁

一 五十二 一丁

在 五十三 一丁

一丁

五

一丁

五

冬木立 樹くつらむの ちゆま ちり ちり

ちりまきまゆはち 冬木立 ちり ちり

ちりまきまゆはち 冬木立 ちり ちり

水淵 山あのかきも ちり ちり

ちりまきまゆはち 冬木立 ちり ちり

大根曳 ちりまきまゆはち 冬木立 ちり ちり

ちりまきまゆはち 冬木立 ちり ちり

ちりまきまゆはち 冬木立 ちり ちり

ひまきまき

ちりまきまゆはち 冬木立 ちり ちり

草丈二巻

ちりまきまゆはち 冬木立 ちり ちり

麦前 ちりまきまゆはち 冬木立 ちり ちり

ちりまきまゆはち 冬木立 ちり ちり

千鳥 ちりまきまゆはち 冬木立 ちり ちり

ちりまきまゆはち 冬木立 ちり ちり

ちりまきまゆはち 冬木立 ちり ちり

ちりまきまゆはち 冬木立 ちり ちり

ちりまきまゆはち 冬木立 ちり ちり

押さね

ちりまきまゆはち 冬木立 ちり ちり

鴨
 鴨乃 三好
 仙 巖
 湖 舟
 芽 矣
 蓬 豆
 地 障
 芦 十
 子 卯
 子 辰
 子 巳

鴨
 鴨乃 三好
 仙 巖
 湖 舟
 芽 矣
 蓬 豆
 地 障
 芦 十
 子 卯
 子 辰
 子 巳

鴨
 鴨乃 三好
 仙 巖
 湖 舟
 芽 矣
 蓬 豆
 地 障
 芦 十
 子 卯
 子 辰
 子 巳

鴨
 鴨乃 三好
 仙 巖
 湖 舟
 芽 矣
 蓬 豆
 地 障
 芦 十
 子 卯
 子 辰
 子 巳

木枯

ふくみ吹くも けり 摺柳の名 爲山
 けりや けりや けりや けりや けりや
 木枯や けりや けりや けりや けりや
 風や ささふ けりや けりや けりや けりや
 けりや けりや けりや けりや けりや
 木ささく やさく 八月おふ けりや けりや
 けりや やりや けりや けりや けりや
 風のささく けりや けりや けりや けりや
 けりや やりや けりや けりや けりや
 木ささく けりや けりや けりや けりや

寒

ふくみ吹くも けり 摺柳の名 爲山
 けりや けりや けりや けりや けりや
 木枯や けりや けりや けりや けりや
 風や ささふ けりや けりや けりや けりや
 けりや けりや けりや けりや けりや
 木ささく やさく 八月おふ けりや けりや
 けりや やりや けりや けりや けりや
 風のささく けりや けりや けりや けりや
 けりや やりや けりや けりや けりや
 木ささく けりや けりや けりや けりや

一葉四葉

一葉四葉

一九

冬月

庭いしや一もあふや 冬のつす 正 藤

山中いおのうきぬ 冬の月 清氏

吹をたそおのふちう 冬の月 叔仁

冬雨

おのきやういふち 冬の月 正角

寂

おのきやういふち 冬の月 思遠

まのあそそまのあやまのいし 三言 柳 磐

寂 砂やたのまに 寂のむ 冬 月

寂 田やりのまに 寂れむつらむ 吹 角

亮

手あふれぬ物 思 寂の何 たい 法 氏

ういふ

りれとして 寂 不 丹 一 桑のふ 細 君 中

ひとつ葉の 一 葉 不 丹 一 桑のふ 寂 蓮 宇

多 備 や だ して 寂 れ 一 寂 々 々 二 葉 不

ふ 丹 あ ころ 松 子 不 丹 一 桑 々 々 一 推

葉 方 不 丹 一 桑 々 々 一 桑 々 々 一 思 遠

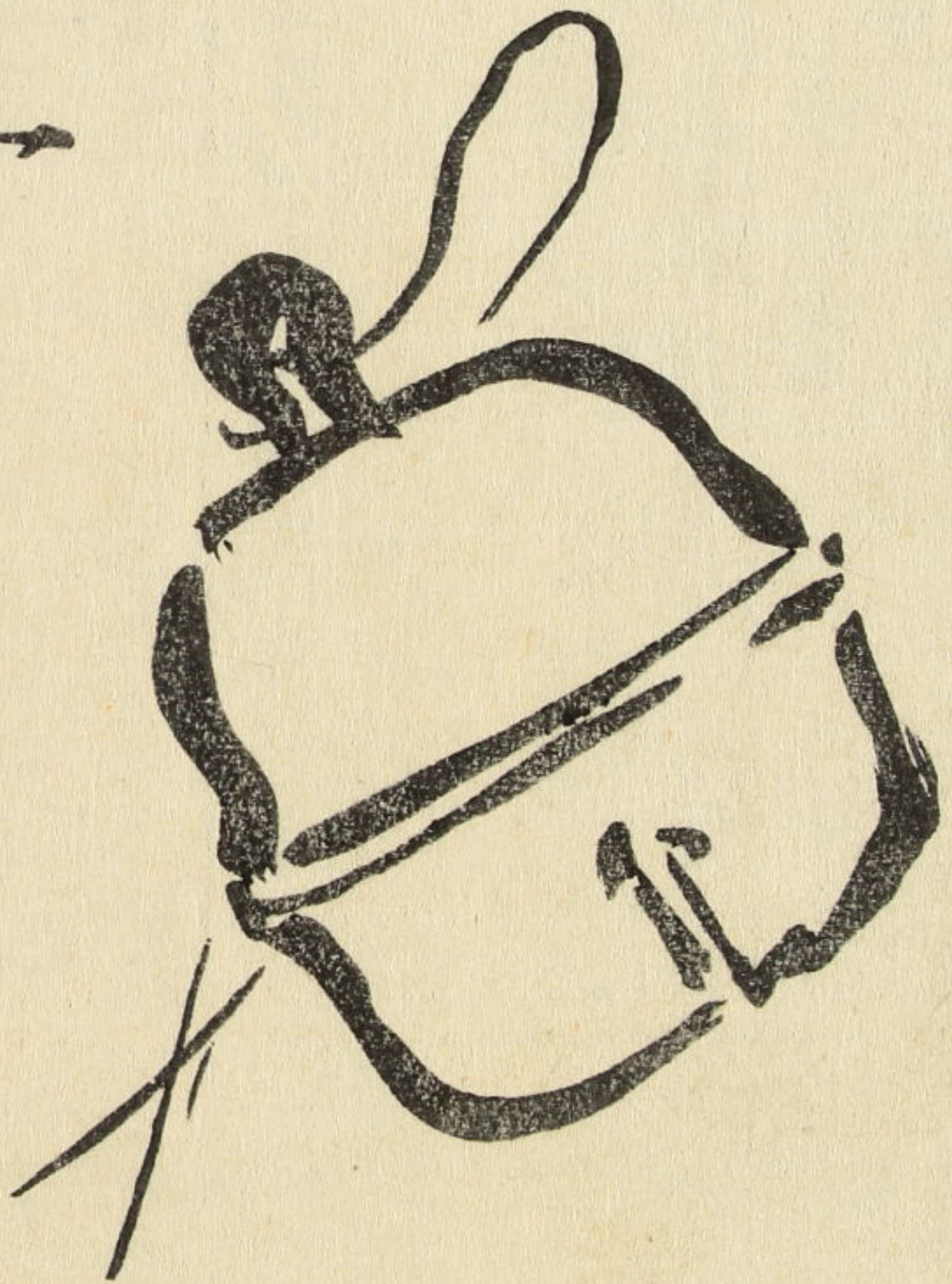
口 時 々 々 一 不 丹 一 桑 々 々 一 亮 冬

ふ 丹 一 桑 々 々 一 桑 々 々 一 亮 冬

ふ 丹 一 桑 々 々 一 桑 々 々 一 亮 冬

冬月

春
夕
を
花
の



と
い
は
れ
る
は
な
し
の
花

馬
の
舌
を
花
の
心
に
以
て
我
の
溝

花
の
心
を
花
の
心
に
以
て

花
の
心
を
花
の
心
に
以
て

画
も
輪
石



寒梅

寒梅やまはるハキウチウチナカリ
梅の香をきくまはるさるさる
る女

寒梅

寒梅やゆきかきソウのつるこ男
梅の香をきくまはるさるさる
る女

寒梅

寒梅ハあられゆきハ梅もあり
梅の香をきくまはるさるさる
る女

寒雨

寒雨やるハウツと川にた
梅の香をきくまはるさるさる
る女

顔十

顔十はゆきかき梅もあり
梅の香をきくまはるさるさる
る女

古所

古所のりお梅も梅も
梅の香をきくまはるさるさる
る女

梅

梅の香をきくまはるさるさる
梅の香をきくまはるさるさる
る女

梅

梅の香をきくまはるさるさる
梅の香をきくまはるさるさる
る女

梅

梅の香をきくまはるさるさる
梅の香をきくまはるさるさる
る女

布子

布子 度ふつけハ梅のさるる布子ハ
梅の香をきくまはるさるさる
る女

紙衣

紙衣 着まはるハ衣をきく梅子ハ
梅の香をきくまはるさるさる
る女

蒲雪

蒲雪 ぬくもりてさるるかきかきハ
梅の香をきくまはるさるさる
る女

梅

梅のりりりてかりきかきハ
梅の香をきくまはるさるさる
る女

梅

梅のりりり梅もさるるハ
梅の香をきくまはるさるさる
る女

梅

梅のりりり梅もさるるハ
梅の香をきくまはるさるさる
る女

梅

梅のりりり梅もさるるハ
梅の香をきくまはるさるさる
る女

梅

梅のりりり梅もさるるハ
梅の香をきくまはるさるさる
る女

梅

梅のりりり梅もさるるハ
梅の香をきくまはるさるさる
る女

梅

梅のりりり梅もさるるハ
梅の香をきくまはるさるさる
る女

梅

梅のりりり梅もさるるハ
梅の香をきくまはるさるさる
る女

梅

梅のりりり梅もさるるハ
梅の香をきくまはるさるさる
る女

梅

梅のりりり梅もさるるハ
梅の香をきくまはるさるさる
る女

梅

梅のりりり梅もさるるハ
梅の香をきくまはるさるさる
る女

炭竈

炭竈のや 月たをさるこいつ、 炭たよ
十冬竈やありさるあつさ 不 然地

埋火

埋火や 土を敷きもたしり 有 之 莫
埋火や 土を敷きもたしり 有 之 莫

火鉢

火鉢 土を敷きもたしり 有 之 莫
火鉢 土を敷きもたしり 有 之 莫

火桶

火桶 土を敷きもたしり 有 之 莫
火桶 土を敷きもたしり 有 之 莫

火爐

火爐

火爐のや 土を敷きもたしり 有 之 莫
火爐のや 土を敷きもたしり 有 之 莫

火爐のや 土を敷きもたしり 有 之 莫
火爐のや 土を敷きもたしり 有 之 莫

火爐のや 土を敷きもたしり 有 之 莫
火爐のや 土を敷きもたしり 有 之 莫

火爐のや 土を敷きもたしり 有 之 莫
火爐のや 土を敷きもたしり 有 之 莫

火爐のや 土を敷きもたしり 有 之 莫
火爐のや 土を敷きもたしり 有 之 莫

火爐のや 土を敷きもたしり 有 之 莫
火爐のや 土を敷きもたしり 有 之 莫

神楽

神楽のや 土を敷きもたしり 有 之 莫
神楽のや 土を敷きもたしり 有 之 莫

一機風流

一機

いづりめ 一具

まぢや

ふらふ

竹ふ

ま



師 五 ぶ ぬ 子 雲 林 山 家 の 河 走 う 之 於 信 臣

松 あり け 中 を 河 走 の 信 臣 山 花 山

信 せ とも 心 有 あり 河 走 う 家 た よ

河 走 の 苗 林 有 一 き 河 走 小 仙 差

河 走 の 心 記 此 河 走 河 走 之 記 蓮 山

河 走 と 河 走 河 走 の 心 河 走 忘 年

河 走 の 柳 あり 河 走 河 走 之 柳 了 女

師 下 河 走 の 心 記 此 河 走 河 走 之 記 蓮 山

河 走 の 心 記 此 河 走 河 走 之 記 蓮 山

河 走 の 心 記 此 河 走 河 走 之 記 蓮 山

河 走 の 心 記 此 河 走 河 走 之 記 蓮 山

兼諸の町のたつねやをたつたき
 軍さしては七隊のき絆一
 方のねとうらうらとらたき
 ねかまぬ船もあつてとと
 編練の一色ゆやととととと
 うらうらととととととととと

老情

まるきやうけりけりまよ即く
 まゆゆととととととととと
 藤ととととととととととと
 穴^三松流

煉拂

多はたやまもももこびく人のくも
 まゆゆととととととととと
 正すりととととととととと
 焼くまかつかつととととととと
 まゆゆととととととととと
 台花ハ色拂ふ望とととととと
 拂ひととととととととととと
 餅つきや踏とととととととと
 ちりつきやおととととととと
 餅つたのまもさえきととととと

餅搗

葎句集冬之部早

待春	とらふや雪の中なる人乃	よふふ	山
除夜	あまふふふふふふふふふ	あまふふふふふふふふふ	あまふふふふふふふふふ
大年	とらふや雪の中なる人乃	よふふ	山

酒をのむは
 福をよむは
 之をよむは
 何れも

萬題發句集俳諧之部上

妻のふき草もむらさきの曙はあけし
時忘れぬ衣巻くは秋のささき
聖子れねるは挿きてまふあつ曙着よけ
あつをほ葉集とまふまふまふまふまふ
情を散りて友人の生ひまふまふまふ
まふまふまふまふまふまふまふまふ
風後志くまふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふまふまふ
はなういきまふまふまふまふまふまふ
物まふまふまふまふまふまふまふまふ
まふまふまふまふまふまふまふまふ
まふまふまふまふまふまふまふまふ
まふまふまふまふまふまふまふまふ
まふまふまふまふまふまふまふまふ

まふまふまふまふまふまふまふまふ
まふまふまふまふまふまふまふまふ
まふまふまふまふまふまふまふまふ
まふまふまふまふまふまふまふまふ

接接くわくわくのまわりに
次のまどろみまよふまわりの
まつたねをまわりのまわりの
まわりのまわりのまわりの
七夕まわりのまわりのまわりの
まわりのまわりのまわりの
まわりのまわりのまわりの
まわりのまわりのまわりの

地 通 地 通 地 通 地 通

娘ちこも 橋のまわりのまわりの
まわりのまわりのまわりの
まわりのまわりのまわりの
まわりのまわりのまわりの
まわりのまわりのまわりの
まわりのまわりのまわりの
まわりのまわりのまわりの
まわりのまわりのまわりの

地 通 地 通 地 通 地 通

日よきくしあんとゆるみほくを
種もあふまきくふまきくあけり
鏡の柄もあはれ難く持てははる
人あまのの神もあはるあ、
まきくはくはくをわくはくはく
まきくはくはくはくはくはく
あはれくはくはくはくはくはく
あはれくはくはくはくはくはく
あはれくはくはくはくはくはく
あはれくはくはくはくはくはく
あはれくはくはくはくはくはく

地 地 地 地 地 地 地 地

何れも中よきくはくはくはく
あはれくはくはくはくはくはく
あはれくはくはくはくはくはく
あはれくはくはくはくはくはく
あはれくはくはくはくはくはく
あはれくはくはくはくはくはく
あはれくはくはくはくはくはく
あはれくはくはくはくはくはく
あはれくはくはくはくはくはく
あはれくはくはくはくはくはく
あはれくはくはくはくはくはく
あはれくはくはくはくはくはく
あはれくはくはくはくはくはく
あはれくはくはくはくはくはく
あはれくはくはくはくはくはく

地 地 地 地 地 地 地 地

海へてさうひさしなれぬやゆく
龍けしちまふさきける 神 棚
煮えふらむ時若ハハハ 清くらと
琉球の島物ちりしくとまゐる
とまゐるもくまふられうまゆく
ひより 清やら 悲ふとたふ不し
日れぬしなれぬ中ふ ぬくし
松乃のうま 鵬 あり 出寸
は角をれを海の丸ををくまへ
伸ふくま けひる あり

地 隆 地 隆 地 隆 地 隆 地 隆

その信 確してハチ、なちもとり
下してあそりれ 田 隆 裏 隆 隆
帯初てぬふハまぬあるひとま
湯子くまきハ 人も 息つき
縁をけし 山ま子のまゐるま
まのゆきのせぬ 厨子れ 新 色
はらうくと云ハちる 耳末のむら 照
あやる 若もなく 小もふくま
おぬいろうそくまやく 新うらり
一 医 者 ち ありしこ 隆 隆 物 三 ハ

地 隆 地 隆 地 隆 地 隆 地 隆

あまのこふいさし 炊の初りしらす
 衣を巻きしり 衣まらう王
 三日月は片は子る 引きまらう
 御草 多き 衣まらう
 ひやくとまらう 衣まらう
 素良の衣まらう 衣まらう
 衣まらう 衣まらう 衣まらう
 衣まらう 衣まらう 衣まらう
 衣まらう 衣まらう 衣まらう

地 地 地 地 地 地 地 地

あまのこふいさし 炊の初りしらす
 衣を巻きしり 衣まらう王
 三日月は片は子る 引きまらう
 御草 多き 衣まらう
 ひやくとまらう 衣まらう
 素良の衣まらう 衣まらう
 衣まらう 衣まらう 衣まらう
 衣まらう 衣まらう 衣まらう
 衣まらう 衣まらう 衣まらう

地 地 地 地 地 地 地 地

養をばくちふらふはまのち南奈
徳のつとむる又 徳のちまらふ
ちをまらふちふらふはまのち南奈
畑の橋本のはくちまらふ

通 岸 田 存

あやふちのちまらふはまのち南奈
あやふちのちまらふはまのち南奈
あやふちのちまらふはまのち南奈
あやふちのちまらふはまのち南奈

我 是 地 是 地 是 地 是 地 是 地 是 地

あやふちのちまらふはまのち南奈
あやふちのちまらふはまのち南奈
あやふちのちまらふはまのち南奈
あやふちのちまらふはまのち南奈
あやふちのちまらふはまのち南奈
あやふちのちまらふはまのち南奈
あやふちのちまらふはまのち南奈
あやふちのちまらふはまのち南奈

是 地 是 地 是 地 是 地 是 地 是 地 是 地 是 地 是 地 是 地 是 地

まののしり新編のむの夜
しりし編入はまのれ松
まのまのまのれまのまのまのまの
まのまのまののまのまのまのまの
まのまのまののまのまのまのまの
まのまのまののまのまのまのまの
まのまのまののまのまのまのまの
まのまのまののまのまのまのまの
まのまのまののまのまのまのまの

まの地 まの地 まの地 まの地 まの地 まの地

まのまのまののまのまのまのまの
まのまのまののまのまのまのまの
まのまのまののまのまのまのまの
まのまのまののまのまのまのまの
まのまのまののまのまのまのまの
まのまのまののまのまのまのまの
まのまのまののまのまのまのまの
まのまのまののまのまのまのまの
まのまのまののまのまのまのまの
まのまのまののまのまのまのまの

まの地 まの地 まの地 まの地 まの地 まの地

一四四

一四四

一 梅 山 院

二 十

白き雪のかりうすはあやうや 梅のむ 杜
 ちのふもたきもゆる 阿 道 龍
 山き院市おくれと走らせて
 のみこみとやき 人のいふ捨
 る後の体りハなき 月れと後
 物はひたき 新雪の灰汁
 表向燈子を流やく 萩乃家
 手紙 投るき 阿波のみより
 池 崎 池 崎 池 崎 池 崎

喧嘩河もあうくと 郭の糸はあめ
 色あゝぬうの 漆一さうと
 煮冷しの湯おるまゝ 湯あは
 てらるん せとせとらうせくハうり
 野のろお 徳生れくみ 涼 意
 三好の 毎いそをささうかうま
 のんとうと 秋も 阿波のふ ちくひり
 を食のしうち 身骨まそあう
 しくま 極まりむれ 皆さうち
 海子おぬろを 扱おぬの 火
 池 崎 池 崎 池 崎 池 崎 池 崎

花ハ柳のくより花を 暮れくさ
 久し叶ふよあはる 階子 庭
 懐とく千鐘の白ひま くらねて
 くらねてあはるふふむけ厚き寸
 まはるまのあはれあの花あ くらん
 わつこハまよなるくくらんく
 梅 新巻のめいほまよくらんく
 ありくしてあはるま くらめー

地 菊 池 菊 次 赤 地 赤

秋くくく下 結してわらわくはひは
 漣くくわてハ くらんくくらん ぬ
 梅まねハあいく出ある おおもひ
 風まきく口も 結くられ くらん
 くらんくく 種あはるくの何もさ
 袖のまねあはれ乃くらん 層
 くらんくあはるあはる 善 くらんく
 梅のむらあはれ 丸て 月 志
 さくら袖くらんくあはるくらんく
 くらんくくらんく くらんくくらんく

地 雨 地 菊 地 菊 地 菊

まじらくのそとハ見ゆるそちを
まじらよまじら餅のまを
まじらとまじらまじらまじら
まじらまじらまじらまじら
まじらまじらまじらまじら
まじらまじらまじらまじら
まじらまじらまじらまじら
まじらまじらまじらまじら

地 池 地 池 地 池 地 池

石炭ハおのつとまじら 樹もありて
まじらまじらまじらまじら
まじらまじらまじらまじら
まじらまじらまじらまじら
まじらまじらまじらまじら
まじらまじらまじらまじら
まじらまじらまじらまじら
まじらまじらまじらまじら

地 池 地 池 地 池 地 池

とまらんとしつてハるのゆほ小 云 郎
 日初より作とる所を記す 云 郎
 拭掃も 弊ふさくまてハるのて 然 地
 あらふまおけぬ 仗くらあり
 秘産を志すて 歸るこれの月
 朽ら日より 暮ふゆらあり
 柱をさすとも 名ひのときり 云
 言ふ所、おの おもひ せら〜

ともろ 何氏石の落も 何 工合
 工合〜めうらとる 小 地 兼
 ともろの 金れまて 何 郎
 ともろ〜おと せらぬ 何 郎
 ともろ〜めをらんと 下 ともろ 兼
 ともろ〜おと 兼 ともろ 兼
 けやうとれハ ともろ 兼
 兼〜ともろ 兼 月
 兼 辨のつれや 地 の〜ともろ
 兼 兼〜ともろ 兼 兼

世をのけし松の枝まきけり
 昔れ集りふ御座ぬ 仕ありを
 子けやうお人の娘をつれあり
 万をまきして舞たるを
 納さめる 明海の若れも縁
 何所の 修路の 舞う 舞
 ちらくと 舞を 舞た入ふ人
 世のまきけり 万をまきけり
 舞るもまきつくまきまき
 とつまき舞を 味い 舞

地 一 地 一 地 一 地 一 地

手あきけ 文を 舞の 月
 残ちありを 舞たき 月
 舞花七 舞を 舞く 月
 仕ありまき 舞を 舞
 舞の 一 舞を 舞
 舞の 舞を 舞を 舞
 花の中 舞を 舞を 舞
 舞の色 舞を 舞を 舞

地 一 地 一 地 一 地 一 地

くの雪みけさふつとけさなり
 雪消此海ふたなりなりぬ
 ちあてききしつらめり大
 ねわさうきる 雪此喜中
 ひささちよき海ゆくをわけて
 手をあひさしき情の化
 秘さぬ海の残る静ききき
 つしと被布ふくきき物
 川あもいそけはひらききいさ
 あつらうとみぬぬのの及

地 地 地 地 地 地 地

さうしよれきうちめけしけの月
 さうさうりやる 雪跡の末
 かさるよりあかて雪は積ゆき
 せ渡ふとけうとハちまれき
 雪せハ先ひまけあくきき
 雪屋松きき雪のまへとす
 雪のまへにけさるさちハきき
 ちらうとく あかきき 雪地 田

地 地 地 地 地 地 地

一換四

六

鷗つゝいのみををあつゝる音屋と
 ひとら木屑を泳る路わり火
 言の
 空母つゝ的の白水うひをーこ
 とやくとさるるりり
 明跡る月七久きさあまそら
 為は葉村分の為たあこるま
 大はる鳴れささの石をわすま
 胸の口あけさるる
 るかふ抱あさるる
 行はる西、くお物さるる

地 地 地 地 地 地 地 地

那やうとら音をそあつゝる音屋と
 空母つゝ的の白水うひをーこ
 とやくとさるるりり
 明跡る月七久きさあまそら
 為は葉村分の為たあこるま
 大はる鳴れささの石をわすま
 胸の口あけさるる
 るかふ抱あさるる
 行はる西、くお物さるる

地 地 地 地 地 地 地 地

つまあけるせまおわつらむまきり
 砂まじりしむらねのり
 ぬまおさしゆめぬまてくまて
 侍望の中もさゆり玉体
 ぬまきりぬめぬのりさゆり
 ちるれあらし又ぬり
 そまぬかろふましくぬまぬ
 けのぬまをさゆりぬまぬ
 空わりのまてぬまぬまぬ
 むらぬぬまぬまぬぬ

左 右 左 右 左 右 左 右

俳諧之部上平



